慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	奥付
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1964
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.57, No.12 (1964. 12)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19641201-0131

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

世界経済が今や転換期にあることは、多くの人々によって認められており、世界経済発展のための新しい方向が摸索されている。その一つの象徴が、本年三～六月にジュネーブで開催された国連貿易開発会議であろう。

日本にとっても、この新展開の中で、いかなる態度をとるべきかが問題であり、それとともに、開放体制・自由化への移行にともなう諸問題が、論議の中心となっている。

しかし全般的に、我が国における論議は、底が浅く、流行に支配されるきらいが強い。それは学界においても、同様であろう。

国際経済学の分野でも、今や転換期にあり、全く混迷した状態にある。その点は、大山氏の学界展望によって明らかであり、この十月に神戸で行なわれた学会での共通テーマたる「世界貿易の進路」をめぐる論究においても、進路というべきものは、理論・実証・政策の面で、何一つ見出されてなかったといっても過言ではなかろう。

ここでとくに感じられたのは、新しい方向づけがいかに困難であるかということであり、同時に、一層の理論的・基礎的研究がまず必要とされるとともに、現実の世界経済の展開・要請に応じて、理論・政策をいかに発展させていくかがもう一つの大きな課題となろう。むしろ、現実へのなまなましい関心、実証的研究、現地調査研究が、理論的展開への着想、有益な示唆・方向づけを与えるように思える。

東南アジアへの五十日にわたる現地調査を明日にひかえて、こんな意味での期待と抱負をもっている。（一九六四・一〇・一四）

（深　海）

昭和三十九年十二月一日発行

© 三田学会雑誌　第五十七巻 第十二号

定価　一二〇円（送料一二円）

東京都港区芝三田二丁目二番地
慶應義塾経済学会
編集兼発行人　代表者　遊部久蔵
電話三田（453）二一一一
振替口座番号　東京四四〇五六

東京都港区芝三田豊岡町八番地
印刷者　図書印刷株式会社
安倍七郎

半ヵ年予約購読料（送料共）　七二〇円
一ヵ年　〃　〃　一四四〇円

御希望の方は左記へ購読料を添え御申込み下さい。

東京都高輪局区内三田綱町一番地
発売所　慶應通信
振替口座番号　東京一五五四九七